

質問

60代女性です。人間ドックでコンピュータ断層撮影装置（CT）検査を受けた結果、縦隔腫瘍の疑いがあるので、専門病院を受診するよう言われました。聞いたことのない病名で不安です。悪性の病気ですか。手術は必要ですか。

縦隔腫瘍



広瀬 敏幸  
県立中央病院  
外科部長

回答

縦隔は上半身の中心あたり、右肺と左肺の間の部位です。その部位にできた腫瘍を総称して縦隔腫瘍といいます。腫瘍ができた場所、年齢によって、得意な腫瘍の種類が違います。通常は無症状で見つかることが多く、検診の胸部レントゲン、人間ドックのCT検査や他の病気で受診し、たまたま見つかったという人がほとんどです。

専門病院では、CT検査に加え、磁気共鳴画像装置（MRI）検査、腫瘍マーカーなどの血液検査をします。場合によっては、皮膚から針で腫瘍を刺して組織の一部を切り取る生検で、診断することもあります。

両肺の間でできる腫瘍



治療方法は、手術で腫瘍を切除することが多いので、生検をせずに手術をするケースがしばしばあります。また、腫瘍の性質と状態から悪性の可能性は低いと判断して、

手術をせずに注意深くCTなどで経過を見ていくこともあります。専門病院を受診し、相談してください。

質問者は60代女性であり、最も多いのが胸腺腫という腫瘍です。胸腺は、胸骨の後ろ、心臓の前であり、免疫をつかさどるリンパ球のT細胞に

関連している臓器です。小児期には比較的大きな臓器ですが成長するに従い、だんだんと退縮していきます。胸腺腫は胸腺

にできる腫瘍であり、良性に近いものから悪性のものまでいろいろと種類があります。

治療は手術で腫瘍の周りの胸腺も含め切除することが多いです。また、放射線療法や抗がん剤などを組み合わせて治療する場合もあります。

手術方法はいろいろあります。従来は胸骨という胸の真ん中の骨を縦に切開して腫瘍を切除していましたが、最近では小さい腫瘍や悪性度の低い腫瘍の場合、胸腔鏡を用いて、胸骨を切開せずに切除することもあります。

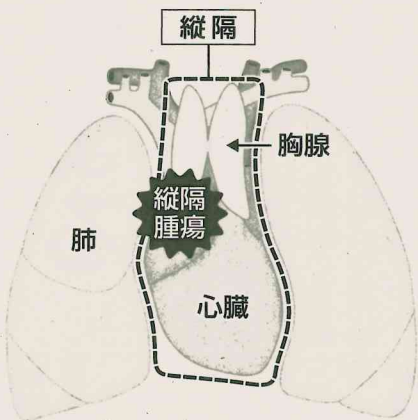
また、昨年からロボットを使った手術も保険適用になりました。

腫瘍の種類や大きさによって、肺などの周りの組織と一緒に切除する場合があります。

専門病院のがん相談支援センターは、縦隔腫瘍のような、がんかどうか分からない病気も無料で相談できます。ぜひ利用してください。

（第4十曜掲載）

悪性以外は経過観察も



がんに関する質問は  
徳島がん対策センター  
〈電088(634)6442〉  
(平日)午前8時半から午後5時まで

